



2022

もっと知りたい

京都の遺跡 第10号



弥生時代の墳墓

大山崎町下植野南遺跡で発見された弥生時代中期の方形周溝墓群 (平成12年度現地説明会)

埋文センターの調査から

速報

ちごの 稚児野遺跡 (福知山市)

京都駅からJR山陰本線で福知山駅を過ぎて2駅目に下夜久野駅があります。駅の東側、由良川の支流牧川のほとり、河岸段丘が形成した小高い台地上に位置する遺跡です。

後期旧石器時代前半期、今からおよそ36,000年前の地層からたくさんの石器が出土しました。京都府内では最古の遺跡のひとつです。令和3年度の調査区では、およそ数メートルの範囲に石器が集中するブロックが十数か所で確認できました。それらは、広場とも思える石器の出土しない空閑地を囲んで楕円形に分布していました。これは、後期旧石器時代前半期にのみ



確認される環状ブロックと呼ばれるものです。環状ブロックの成因は、ナウマン象などの大型獣の狩りを集団で行ったとする説をはじめ、石器の製作と交換の場、まつりの場など集団間の生活の痕跡といわれています。

出土した石器には、狩猟具であるナイフ形石器、木・皮・骨角などを加工するための削器や搔器、伐採具である刃部磨製石斧、石器製作用の敲き石(ハンマー)などがあります。



環状ブロック調査状況(北西から)

遺物が語る京都の歴史

不思議な土製品 (福知山市観音寺遺跡)



由良川の中流域左岸にある観音寺遺跡からは不思議な土製品が出土しています。左は、弥生時代中期の竪穴住居跡から出土した虫を表現したような土製品(長さ6cm)。右は、後期の竪穴住居跡から出土したゴルフボールのような形をした穴の開いた土製品(直径3.5cm)。2000年ほど前の当時の人々が何を目的にこのような造形品を創り出したのか、まだまだわからないことばかりです。

発掘調査

よもやまばなし

標高を測る

現地調査の図面には、必ず標高を記入します。高さを測る地点にスタッフ(箱尺)を立て、その目盛りをレベル(水準器)で読みます。スタッフの数字「8」の上には3mm幅の白枠、その上に2mm幅の黒枠、横には5mmと1cmの黒白の目盛りが規則的に並んでいます。昔は右端の数字はなく、目盛りを素早く間違わず読むことが求められました。



レベル



スタッフ目盛

【発行日】令和4年3月

【編集・発行】

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番地の3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>





首長墓の誕生

京丹後市赤坂今井墳墓（国史跡）

弥生時代後期になると府北部では、装身具や武器・工具などの副葬品が豊かな有力集団の墓が誕生します。後期の終わりに築かれた東西36m・南北39m・高さ3.5mを測る方形の墳墓には、巨大な埋葬施設が築かれていました。



多数の埋葬施設を営む墳墓

京丹後市金谷1号墓

弥生時代後期に築かれた府北部の方形台状墓には、大小複数の埋葬施設があることが特徴的です。子どもを含めた親族集団が埋葬されていたのでしょうか。



中期の大型方形貼り石墓

与謝野町日吉ヶ丘遺跡（国史跡）

大きな環濠集落の縁辺から見つかった長方形の墳丘の斜面に石を貼った大きなお墓です。長辺32m・短辺20mを測ります。埋葬施設は一つで、被葬者の頭部と推定される位置から、水銀朱と677点以上の碧玉製管玉が出土しました。

写真提供 4 与謝野町教育委員会、5左 舞鶴市、10 京田辺市



丘陵上に並ぶ台状墓

京丹後市奈具墳墓群

中期の大規模な水晶と緑色凝灰岩を用いた玉作り工房が見つかった奈具岡遺跡の隣の丘陵上には、3基の長方形の墓が並んでいました。一つの墳丘で多数の埋葬を行っています。墓穴の大きさが均一で被葬者はいずれも成人と考えられます。



二つの墓域

舞鶴市志高遺跡

中期の居住域を挟んで、南西側で方形周溝墓群（左）が、北東側で方形貼り石墓群（右）が見つっています。方形周溝墓は南の地域から、方形貼り石墓は西の地域から伝わったものと考えられます。



桂川上流域の墳墓



時塚遺跡

府南部でも北に位置する大堰川の流域でも、亀岡市や南丹市などで中期の方形周溝墓が平地から見つかっています（7 南丹市池上遺跡、8 亀岡市時塚遺跡）。また、後期後半の複数の埋葬施設を営む南丹市狭間墳墓群（6）は、台地の上に営まれていました。

狭間墳墓群

府南部でも北に位置する大堰川の流域でも、亀岡市や南丹市などで中期の方形周溝墓が平地から見つかっています（7 南丹市池上遺跡、8 亀岡市時塚遺跡）。また、後期後半の複数の埋葬施設を営む南丹市狭間墳墓群（6）は、台地の上に営まれていました。

北の山の墓

弥生時代になると区画をもった墓が登場します。ここでは、平地の区画墓を方形周溝墓、丘陵上の区画墓を方形台状墓と呼び分けます。弥生時代の墓は、地域色があり、時期によって様子変化していきます。墓地はムラの一角に営まれることが多いですが、府北部（日本海側に注ぐ水系）では、後期になるとムラから離れ、山の上で造られるようになります。一方、府南部（淀川水系）では、平地で方形周溝墓が造られることが多いようです。また、府北部では弥生時代中期に山陰地方に見られる、墳丘の斜面に石を貼った方形貼り石墓が造られます。

南の平地の墓



高地性集落の台状墓

木津川市木津城山遺跡

平地と比高差70mの丘陵上の後期の集落遺跡では、居住域と異なる尾根上で3基の方形台状墓から14基の埋葬施設が見つかりました。



南丹市池上遺跡の方形周溝墓には、複数の埋葬施設をもつものがあります。



府内最古の方形周溝墓

京田辺市稲葉遺跡

JR京田辺駅前の開発に伴い前期の方形周溝墓が1基みつけられました。一辺12mを測り、単独で営まれていました。



大山崎町下植野南遺跡

100m四方の広大な墓域から中期に営まれた79基の方形周溝墓が見つかりました。埋葬施設の多くは失われていましたが、一つの墳丘に1~4基の埋葬施設が営まれたようです。

近代	江戸時代
近世	安土桃山時代
	戦国時代
中世	室町時代
	南北朝時代
	鎌倉時代
古代	平安時代
	奈良時代
	飛鳥時代
古墳時代	後期
	中期
	前期
弥生時代	後期
	中期
	前期
縄文時代	晩期
	後期
	中期
	前期
	早期
	草創期
	旧石器時代

1・2
6・11
3~5・7~9
10